

血液製剤に関する医療機関からの感染症報告事例等について

輸血用血液製剤で感染が疑われる事例(劇症肝炎・HIV 感染等)について 2

新規報告事例なし

平成 22 年度感染症報告事例のまとめ
(平成 22 年 10 月 26 日報告分以降)について 5

輸血後 HEV 感染の予防対策(問診・NAT の状況) 17

< 参 考 >

- ・ 血液製剤に関する報告事項について
(平成 23 年 1 月 27 日付け血液対策課事務連絡) 25
- ・ 血液製剤に関する報告事項について(回答)
(平成 23 年 2 月 2 日付け日本赤十字社提出資料) 27
- ・ (参考)安全対策業務の流れ 29

輸血用血液製剤で感染が疑われる事例について （平成22年11月2日時点）

【HIV感染が疑われた事例】

報告日	輸血された血液製剤	供血者数	供血者検査結果等	同一血液由来の他製剤等について	新規報告
H15.9.5	赤血球製剤	8人	保管検体個別 NAT 全て陰性 8人中6人が来訪 いずれも感染していないことが確認された。	新鮮凍結血漿：3本。使用済み。 原料血漿は流通停止。 新鮮凍結血漿を投与された患者3名のうち、1名は原疾患で死亡残り2名は輸血後（約6ヵ月後）抗体検査で陰性。	平成17年10月18日以降、残る2人の来訪なし

【HBV感染が疑われた事例】

報告日	輸血された血液製剤	供血者数	供血者検査結果等	同一血液由来の他製剤等について	新規報告
H16.3.22	血小板製剤 赤血球製剤	37人	保管検体個別 NAT 全て陰性 37人中32人が来訪 個別 NAT 陰性：32人	新鮮凍結血漿：5本（供血者4人分由来） 使用済み。 残りは原料血漿。 新鮮凍結血漿を投与された患者5名のうち、陰性2名、不明3名。	平成18年10月17日以降、残る5人の来訪なし
H16.11.26	新鮮凍結血漿 赤血球製剤	48人	保管検体個別 NAT 全て陰性 48人中41人が来訪 HBV 関連検査陰性：40人 HBs 抗原、NAT 陰性、HBs 抗体、 HBc 抗体陽性：1人	原料血漿：2本確保。31本使用済み。 新鮮凍結血漿：16本。医療機関へ提供済み。 赤血球製剤：45本。医療機関へ提供済み。	平成21年4月22日以降、残る7人の来訪なし

報告日	輸血された血液製剤	供血者数	供血者検査結果等	同一血液由来の他製剤等について	新規報告
H17. 1. 12	赤血球製剤 血小板製剤	16人	保管検体個別 NAT 陽性 2人 16人中 12名が来訪 HBV 関連検査陰性：12人 (個別 NAT 陽性の 2人は、複数回再献血を行っているが、HBc 抗体を含む関連検査が全て陰性であり、感染歴があった可能性は低い。)	原料血漿：3本確保済み。12本使用済み。 新鮮凍結血漿：12本全て医療機関へ提供済み。	平成 17 年 10 月 18 日以降、残る 4人の来訪なし。
H17. 2. 4	赤血球製剤	9人 追跡対象は 4人。	保管検体個別 NAT：9人全て陰性 (当該患者の HBV-NAT が陽性になる前の輸血の供血者は 9人中 4人。) 4人中 3人来訪。 HBV 関連検査陰性：2人 HBc 抗体陽性：1人	原料血漿：7本確保済み。 新鮮凍結血漿：2本確保済み、2本医療機関へ提供済み。	平成 18 年 4 月 25 日以降、追跡調査対象の残る 1人の来訪なし。
H17. 6. 23	赤血球製剤 新鮮凍結血漿	20人	保管検体個別 NAT 全て陰性 20人中 18人が来訪。 HBV 関連検査陰性：18人	原料血漿：17本中 10本確保。 新鮮凍結血漿：6本中 3本確保。 赤血球製剤：15本全て医療機関へ供給済み。	平成 22 年 7 月 27 日以降、残る 2人の来訪なし。
H18. 4. 7	血小板製剤 赤血球製剤	53人	保管検体個別 NAT 全て陰性 53人中 46人が来訪。 HBV 関連検査陰性：43人 HBc 抗体、HBs 抗体陽性：2人 HBs 抗体陽性：1人	原料血漿：51本中 7本確保。44本使用済み。 新鮮凍結血漿：14本全て供給済み。	平成 22 年 7 月 27 日以降、残る 7人の来訪なし。

報告日	輸血された血液製剤	供血者数	供血者検査結果等	同一血液由来の他製剤等について	新規報告
H18. 6. 5	赤血球製剤 新鮮凍結血漿	29 人	保管検体個別 NAT 全て陰性 29 人中 28 人来訪 HBV 関連検査陰性：25 人 HBs 抗体、HBc 抗体陽性：1 人 HBs 抗体陽性：1 人	原料血漿：27 本中 11 本確保。16 本使用済み。 新鮮凍結血漿：8 本中 6 本確保。2 本供給済み。 赤血球製剤：18 本全て使用済み。	平成 21 年 4 月 22 日以降、残る 1 人の来訪なし。
H19. 2. 20	赤血球濃厚液	3 人	保管検体個別 NAT 全て陰性 3 人中 2 人来訪 HBV 関連検査陰性：2 人	原料血漿：3 本全て確保。	平成 19 年 10 月 19 日以降、残る 1 人の来訪なし。
H21. 11. 20	新鮮凍結血漿 血小板製剤 赤血球製剤	45 人	保管検体個別 NAT 全て陰性 感染が疑われる輸血時の製剤の 供血者 23 人 23 人中 20 人来訪 HBV 関連検査陰性：20 人	原料血漿：20 本中 2 本確保。18 本使用済み。 新鮮凍結血漿：3 本全て供給済み。 赤血球製剤：22 本全て供給済み。	平成 22 年 2 月 13 日以降、残る 3 人の来訪なし。

【HCV 感染が疑われた事例】

報告日	輸血された血液製剤	供血者数	供血者検査結果等	同一血液由来の他製剤等について	新規報告
H18. 2. 15	赤血球製剤 血小板製剤 新鮮凍結血漿	81 人	保管検体個別 NAT 全て陰性 81 人中 78 人来訪 HCV 関連検査陰性：78 人	原料血漿：70 本中 67 本確保。3 本使用済み。 新鮮凍結血漿：14 本中 11 本確保。3 本供給済み。 赤血球製剤：6 本全て供給済み。	平成 19 年 10 月 19 日以降、残る 3 人の来訪なし

平成22年度感染症報告事例のまとめ（前回報告分以降）について

- 1 平成22年10月26日報告分から23年2月2日までに報告（新規及び追加）があった感染症報告（疑い事例を含む。供血者からの情報により開始した遡及調査によるものを除く。）は、輸血用血液製剤32件である。輸血用血液製剤の内訳は、

(1) B型肝炎報告事例：	8
(2) C型肝炎報告事例：	13
(3) HIV感染報告例：	0
(4) その他の感染症報告例：	11
- 2 B型肝炎報告事例
 - (1) 輸血前後に感染症検査でHBs抗原（又はHBV-DNA）等が陽転した事例は7例（輸血後NATで陰性又は輸血前後で陽性は1例）。
 - (2) 血液製剤を提供した献血者の保管検体の個別NAT陽性の事例は1例。
 - (3) 輸血後に死亡（原疾患又は他の原因による死亡を除く）したとの報告を受けた事例は0例（劇症化例含む。）である。
- 3 C型肝炎報告事例
 - (1) 輸血前後に抗体検査（又はHCV-RNA）等が陽転した事例は10例（輸血後NATで陰性又は輸血前後で陽性は2例）。
 - (2) 使用した血液製剤を提供した献血者の保管検体の個別NAT陽性事例は2例。
 - (3) 輸血後に死亡（原疾患又は他の原因による死亡を除く）したとの報告を受けた事例は0例。
- 4 HIV報告事例
 - (1) 輸血前後に抗体検査等が陽転した事例は0例。
 - (2) 使用した血液製剤を提供した献血者の保管検体の個別NAT陽性事例は0例。
 - (3) 輸血後に死亡（原疾患又は他の原因による死亡を除く）したとの報告を受けた事例は0例。
- 5 その他感染症報告事例
 - (1) B型肝炎及びC型肝炎以外の肝障害報告事例は2例。
 - (2) 細菌等感染報告事例において、血液製剤を提供した献血者の保管検体の無菌試験陽性事例は0例。輸血後に死亡（原疾患又は他の原因による死亡を除く）したとの報告を受けた事例は1例。

【国内輸血例】

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受領日	販売名(一般名)	患者性別	年代	原疾患	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与前検査	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤等	備考	使用単位数	供血者再献血	同一供血者製剤確保	同一供血者製剤使用	感染症等転帰	転帰	供血者発症及の場合の供血者保管検体(抗原、抗体、NAT)(投与時点)	供血者発症及の場合の供血者の検査値	
輸血によるHBV感染報告例(疑い例を含む。)																										
供血者陽性事例																										
3-1000057	A-10000041	2010/9/2	2010/9/15	新鮮凍結血漿-LR(新鮮凍結人血漿)	男	70	胆・肝・脾腫瘍	B型肝炎	10/04	HBsAg(-) (10/04) HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) HBeAg(-) HBeAb(-) (10/04)	HBsAg(+) (10/08) HBV-DNA(+) (10/08)	-	HBV-DNA(+) (10/09)	陽性(輸血後)	保管検体8本 HBV-DNA(-) 1本HBV-DNA(+)		HBV-DNA陽性輸血用血液(献血者)についての情報 ・同一採血番号製剤:1本の赤血球濃厚液-LRを製造し、医療機関へ供給済み。(受血者に感染の疑いなし。) ・再来献血:1回献血に再来。(HBV関連検査陰性)(保管検体についてHBV-DNA(-)) 1本の原料血漿、1本の赤血球濃厚液-LRを製造。原料血漿は確保済み。赤血球濃厚液-LRは医療機関へ供給済み。 ・当該以前の献血:可能な限り過去に遡り、保管検体の個別NATが陰性と判定されるまで全ての輸血用血液、原料血漿を避ける。 医療機関報告i10102034-001	18単位	8/9(HBV関連検査陰性)	9本の赤血球濃厚液-LRを製造。赤血球濃厚液-LRは2本廃棄済み。	赤血球濃厚液-LR7本は医療機関へ供給済み。	非重篤	回復		患者検体と献血者(HBV陽性保管検体)とでS領域193bp*の塩基配列を比較したところ、全て一致した。献血者と患者のHBウイルスは共にGenotypeAで、塩基配列からSubtypeはadwと推定した。 *献血者検体のPreS/S領域を含む前半部の1556bpの塩基配列はウイルス量が少なくPCRで増幅できなかった。	
陽転事例																										
3-1000076	A-10000063	2010/10/28	2010/11/11	照射赤血球濃厚液-LR(人赤血球濃厚液(放射線照射)) 新鮮凍結血漿-LR(新鮮凍結人血漿)	女	30	産科血液疾患	B型肝炎	10/07	HBsAg(-) HBsAb(-) (10/03) HBV-DNA(-) (10/07)	HBV-DNA(+) HBsAg(+) (10/10)	-	-	-	保管検体9本(全部)HBV-DNA(-)	ハンスロン	8単位 10単位	2/9(HBV型関連検査陰性)	4本の原料血漿、5本の赤血球濃厚液-LRを製造。原料血漿はすべて確保済み。	赤血球濃厚液-LRは全て医療機関へ供給済み。	非重篤	不明				
3-1000077	A-10000064	2010/10/28	2010/11/11	赤血球濃厚液-LR(人赤血球濃厚液)	女	50	脳疾患 消化器疾患	B型肝炎	10/07	HBsAg(-) HBcAb(-) (10/06)	HBsAg(+) (10/09) HBV-DNA(+) HBsAg(+) HBcrAg(+) HBsAb(-) HBcAb(-) (10/09) HBeAg(+) HBeAb(-) IgM-HBcAb(-) (10/10) 医療機関にて調査した結果、患者のHBウイルスはGenotype Cであった。	HBV-DNA(-) (10/06)	-	陰性(輸血前)	保管検体4本(全部)HBV-DNA(-)		8単位	0/4	2本の原料血漿、2本の新鮮凍結血漿-LRを製造。原料血漿は全て確保済み。新鮮凍結血漿-LRは全て確保済み。	-	非重篤	未回復				

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告領日	販売名(一般名)	患者性別	年代	原疾患	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与前検査	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤等	備考	使用単位数	供血者再献血	同一供血者製剤確保	同一供血者製剤使用	感染症等転帰	転帰	供血者発過及の場合の供血者保管検体(抗原、抗体、NAT)(投与時点)	供血者発過及の場合の供血者の検査値	
3-1000091	A-10000077	2010/12/1	2010/12/14	照射赤血球濃厚液-LR(人赤血球濃厚液(放射線照射))	女	80	外傷・整形外科的疾患	B型肝炎	10/07	HBsAg(-)(10/07)	HBsAg(-)(10/08) HBsAg(+)(10/08) HBsAb(-) HBcAb(±) HBeAg(+) HBeAb(-)(10/11)	HBV-DNA(-) HBsAb(-) HBcAb(-)(10/07)	HBV-DNA(+) HBsAg(+) HBsAb(-) HBcAb(-)(10/11)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体1本(全部)HBV-DNA(-)			2単位	0/1	1本の原料血漿を製造、確保済み	-	重篤	不明			
3-1000094	A-10000085	2010/12/8	2010/12/24	照射赤血球濃厚液-LR(人赤血球濃厚液(放射線照射)) 照射濃厚血小板(人血小板濃厚液(放射線照射))	男	70	血液腫瘍	B型肝炎	08/07-10 08/07-10	HBsAg(-)(08/03) HBcAb(-)(08/04)	HBsAg(+)(10/12)		HBV-DNA(+)(10/12)	陽性(輸血後)	保管検体13本について全てHBV-DNA(-)		10単位 80単位	11/13(8人はHBV型関連検査陰性、2人はHBs抗体のみ陽性、1人はHbs抗体およびHBc抗体陽性であり、当該献血時においても同様であった。)	11本の原料血漿、2本の新鮮凍結血漿-LRを製造。	原料血漿は全て使用済み。新鮮凍結血漿-LRはすべて医療機関へ供給済み。	重篤	不明				
3-1000096	A-10000086	2010/12/10	2010/12/24	照射赤血球濃厚液-LR(人赤血球濃厚液(放射線照射))	男	70	腎・泌尿器系疾患	B型肝炎	10/07-10	HBsAg(-)(09/02) HBsAg(-)(09/10) HBsAg(-)(09/11)	HBsAg(-)(10/09) HBsAb(-)(10/09) HBsAg(+)(10/12)	HBV-DNA(-) HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-)(10/07)	HBV-DNA(+) HBsAg(+) HBsAb(-) HBcAb(+)(10/12)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体11本について全てHBV-DNA(-)		22単位	2/11(HBV関連検査陰性)	8本の原料血漿、3本の新鮮凍結血漿-LRを製造。原料血漿はすべて確保済み。新鮮凍結血漿-LRは全て確保済み。	-	非重篤	未回復				
3-1100002	A-10000093	2011/1/18	2011/2/1	照射濃厚血小板(人血小板濃厚液(放射線照射)) 照射赤血球濃厚液-LR(人赤血球濃厚液(放射線照射))	女	60	血液腫瘍	B型肝炎	09/03-09	HBsAg(-)(09/02)	HBsAg(-)(09/07) HBV-DNA(+) HBsAg(+) HBsAb(-) HBcAb(+)(10/11)		HBV-DNA(+) HBsAg(+) HBsAb(-) HBcAb(+)(11/01)	陽性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体13本について全てHBV-DNA(-)		10単位 4単位	11/13(10人はHBV関連検査陰性、1人はHBs抗体のみ陽性であり、当該献血時も同様であった。)	12本の原料血漿、1本の新鮮凍結血漿-LRを製造。	原料血漿は11本使用済み、1本廃棄済み。新鮮凍結血漿-LRは医療機関へ供給済み。	非重篤	未回復				
輸血後NATで陰性又は輸血前後で陽性																										
3-1000098	A-10000089	2010/12/27	2011/1/1	照射濃厚血小板-LR(人血小板濃厚液(放射線照射))	女	60	血液腫瘍	B型肝炎	10/04	HBsAg(-) HBcAb(-) HBV-DNA(+)(10/04)	HBV-DNA(+)(10/07) HBV-DNA(+)(10/12)	HBV-DNA(+)(10/04)	HBV-DNA(+)(10/12)	陽性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体3本について全てHBV-DNA(-)			30単位	3/3(HBV関連検査陰性)	3本の原料血漿を製造、すべて確保済み	-	非重篤	不明			

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受領日	販売名(一般名)	患者性別	年代	原疾患	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与前検査	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤等	備考	使用単位数	供血者再献血	同一供血者製剤確保	同一供血者製剤使用	感染症等転帰	転帰	供血者発過及の場合の供血者保管検体(抗原、抗体、NAT)(投与時点)	供血者発過及の場合の供血者の検査値	
陽転未確認事例																										
(該当なし)																										
輸血によるHCV感染報告例(疑い例を含む。)																										
供血者陽性事例																										
3-1000075	A-1000062	2010/10/26	2010/11/5	赤血球M・A・P(人赤血球濃厚液)照射赤血球M・A・P(人赤血球濃厚液(放射線照射))	女	40	消化器疾患	C型肝炎	06/12 06/10	HCV-Ab(-) (06/10)	HCV-Ab(+) (07/07) HCV-Ab(+) (08/04) HCV-RNA(+) (10/10)	-	HCV-RNA(+) HCV-Ab(+) (10/10)	陽性(輸血後)	保管検体4本 HCV-RNA(-) 1本HCV-RNA(+)		HCV-RNA陽性輸血用血液(献血者)についての情報 同一採血番号製剤:1本の原料血漿、1本の新鮮凍結血漿を製造。原料血漿は使用済み。新鮮凍結血漿は医療機関へ供給済み。 同一採血番号製剤:当該献血者にその後の献血は確認されていない。 当該以前の献血:直近以前の献血は2000年2月18日であり、遡及調査対象外。	6単位 4単位	4/5(HCV関連検査陰性)	5本の原料血漿、2本の新鮮凍結血漿を製造。	原料使用済み。新鮮凍結血漿は全て医療機関へ供給済み。	非重篤	未回復		当該保管検体と患者検体中のCore領域196bp(nt.508-703)の塩基配列を比較したところ両者の塩基配列は全て一致した。Core-E1-E2領域1279bpの塩基配列は患者検体のウイルス濃度が低く解析できなかった。献血者と患者のHCウイルスは共にGenotype III (2a)であった。	
3-100090	A-1000076	2010/11/30	2010/12/14	新鮮凍結血漿(新鮮凍結人血漿)	男	70	肝・胆・膵疾患 消化器疾患 その他	C型肝炎	07/08	HCV-Ab(-) (07/07)	HCV-RNA(+) HCV-Ab(+) HCVグレーピング2 (10/11)	-	HCV-RNA(+) HCV-Ab(+) (10/11)	陽性(輸血後)	保管検体1本について HCV-RNA(+)		厚生労働省受付番号: i10102516-001 A-10000062に使用された輸血用血液(赤血球製剤)と同時採血の輸血用血液(新鮮凍結血漿)による感染症報告	2単位	0/1	1本の原料血漿、1本の赤血球MAPを製造。	原料血漿は使用済み。赤血球MAPは医療機関へ供給済みであり、A-10000062の対象製剤	非重篤	不明		当該保管検体と患者検体中のウイルスの塩基配列を検査したところ、検査した範囲(Core領域196bp)で全て一致した。また、超可変領域(hypervariable region:HVR)を含むCore-E1-E2の領域1279bpで両者は1箇所において相違が見られたが、その他は全て一致した。献血者と患者と患者のHCウイルスは共にGenotypeIII(2a)であった。	
陽転事例																										
3-1000068	A-1000054	2010/10/1	2010/10/14	照射赤血球濃厚液-LR(人赤血球濃厚液(放射線照射))	男	90	消化器疾患	C型肝炎	09/10	HCV-Ab(-) (09/10)	HCV-RNA(+) HCV-Ab(+) (10/09)	HCV-RNA(-) HCV-Ab(-) (09/10)	HCV-RNA(+) HCV-Ab(+) (10/10)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体3本(全部)HCV-RNA(-)			4単位	2/3(HCV関連検査陰性)	3本の原料血漿を製造。	原料血漿は全て使用済み。	非重篤	未回復			

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受領日	販売名(一般名)	患者性別	年代	原疾患	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与前検査	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤等	備考	使用単位数	供血者再献血	同一供血者製剤確保	同一供血者製剤使用	感染症等転帰	転帰	供血者発選及の場合の供血者保管検体(抗原、抗体、NAT)(投与時点)	供血者発選及の場合の供血者の検査値
3-1000078	A-1000065	2010/10/29	2010/11/11	照射濃厚血小板-LR(人血小板濃厚液(放射線照射)) 照射赤血球濃厚液-LR(人赤血球濃厚液(放射線照射)) 新鮮凍結血漿-LR(新鮮凍結人血漿)	女	70	循環器疾患	C型肝炎	10/02 10/02 10/02	HCV-Ab(-) (10/01)	HCV-Ab(+) (10/10) HCV-Ab(+) (10/10) HCV-RNA(+) (10/10) HCVコアAg(+) (10/10) HCVコアAb(-) (10/10)	HCV-RNA(-) (10/02)	HCV-RNA(+) (10/10) HCV-Ab(+) (10/10)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体13本(全部)HCV-RNA(-)			20単位 14単位 8単位	5/13(HCV関連検査陰性)	8本の原料血漿、1本の新鮮凍結血漿-LR、4本の赤血球濃厚液-LRを製造。原料血漿はすべて確保済み。鮮凍結血漿-LRは確保済み。	赤血球濃厚液-LRは全て医療機関へ供給済み。	重篤	未回復		
3-1000084	A-1000070	2010/11/18	2010/11/30	照射濃厚血小板-LR(人血小板濃厚液(放射線照射)) 濃厚血小板-LR(人血小板濃厚液) 赤血球濃厚液-LR(人赤血球濃厚液) 照射赤血球濃厚液-LR(人赤血球濃厚液(放射線照射)) 新鮮凍結血漿-LR(新鮮凍結人血漿)	男	70	血液疾患	C型肝炎	10/08-10 10/09-10 10/08-09 10/10-10/09	HCV-Ab(-) (10/08)	HCV-Ab(-) (10/09) HCVコアAg(-) (10/10) HCVコアAg(+) (10/10) HCV-Ab(-) (10/10) HCV-RNA(+) (10/10) HCVコアAg(+) (10/10) HCV-Ab(-) (10/11)	HCV-RNA(-) (10/08)	HCV-RNA(+) (10/11)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体39本(全部)HCV-RNA(-)	グロベニン-		185単位 50単位 20単位 2単位 10単位	14/39(HCV関連検査陰性)	28本の原料血漿、6本の新鮮凍結血漿-LR、5本の赤血球濃厚液-LRを製造。原料血漿はすべて確保済み。新鮮凍結血漿-LRは全て確保済み。	赤血球濃厚液-LRは医療機関へ供給済み。	重篤	未回復		
3-1000087	A-1000073	2010/11/25	2010/12/9	新鮮凍結血漿-LR(新鮮凍結人血漿) 照射赤血球濃厚液-LR(人赤血球濃厚液(放射線照射))	女	80	消化器腫瘍 肝・胆・膵腫瘍	C型肝炎	10/07 10/07	HCV-Ab(-) (09/09) HCV-Ab(-) (10/06)	HCV-Ab(+) (10/10) HCV-RNA(+) (10/11)	HCV-RNA(-) (10/07) HCV-Ab(-) (10/07)	HCV-RNA(+) (10/11) HCV-Ab(+) (10/11) HCV-RNA(+) (10/11) HCV-Ab(+) (10/11)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体12本(全部)HCV-RNA(-)			10単位 4単位	5/12(HCV関連検査陰性)	1本の原料血漿、1本の新鮮凍結血漿-LR、10本の赤血球濃厚液-LRを製造。原料血漿は確保済み。新鮮凍結血漿-LRは確保済み。	赤血球濃厚液-LRは全て医療機関へ供給済み。	非重篤	未回復		
3-1000088	A-1000074	2010/11/26	2010/12/13	赤血球濃厚液-LR(人赤血球濃厚液) 照射赤血球濃厚液-LR(人赤血球濃厚液(放射線照射))	男	70	循環器疾患	C型肝炎	10/09 10/09	HCV-RNA(-) (10/09) HCV-Ab(-) (10/09)	HCV-RNA(+) (10/11) PCRでHCV-RNA陰転化。 (10/11)	HCV-RNA(-) (10/09)	HCV-RNA(+) (10/11)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体2本(全部)HCV-RNA(-)			2単位 2単位	0/2	2本の新鮮凍結血漿-LRを製造、全て確保済み。	-	重篤	回復		

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受領日	販売名(一般名)	患者性別	年代	原疾患	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与前検査	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤等	備考	使用単位数	供血者再献血	同一供血者製剤確保	同一供血者製剤使用	感染症等転帰	転帰	供血者発過及の場合の供血者保管検体(抗原、抗体、NAT)(投与時点)	供血者発過及の場合の供血者の検査値	
3-1000089	A-10000075	2010/11/26	2010/12/13	照射赤血球濃厚液-LR(人赤血球濃厚液(放射線照射))	男	60	腎・泌尿器系疾患循環器疾患その他の疾患	C型肝炎	09/05	HCVコアAg(-)、HCV-Ab(-)(09/04) HCVコアAg(-)(09/05)	HCVコアAg(+)(10/11) HCVコアAg(+) HCV-Ab(+)(10/11)	-	HCV-RNA(+) HCV-Ab(+)(10/11)	陽性(輸血後)	保管検体2本すべてHCV-RNA(-)		4単位	0/2	2本の原料血漿を製造。	全て使用済み。	非重篤	軽快				
3-1000092	A-10000078	2010/12/2	2010/12/15	照射赤血球濃厚液-LR(人赤血球濃厚液(放射線照射)) 赤血球濃厚液-LR(人赤血球濃厚液) 新鮮凍結血漿-LR(新鮮凍結人血漿) 照射濃厚血小板-LR(人血小板濃厚液(放射線照射))	女	40	循環器疾患	C型肝炎	10/08 10/08 10/08	HCV-Ab(-)(10/08) HCVコアAg(-) HCV-Ab(-)(10/08)	HCVコアAg(+) HCV-Ab(+)(10/11)	HCV-RNA(-) HCV-Ab(-)(10/08)	HCV-RNA(+) HCV-Ab(+)(10/11)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体17本すべてHCV-RNA(-)		4単位 12単位 10単位 40単位	4/17(HCV関連検査陰性)	11本の原料血漿、1本の新鮮凍結血漿-LR、5本の赤血球濃厚液-LRを製造。原料血漿は全て確保済み。新鮮凍結血漿-LRは確保済み。	赤血球濃厚液-LRは全て医療機関へ供給済み。	重篤	未回復				
3-1100001	A-10000091	2011/1/5	2011/1/9	照射赤血球濃厚液-LR(人赤血球濃厚液(放射線照射))	女	70	腎・泌尿器系疾患	C型肝炎	10/08	HCV-Ab(+)(09/09) HCVコアAg(-)(10/08)	HCVコアAg(+)(10/12) HCV-RNA(+)(10/12)	-	HCV-RNA(+)(10/1)	陽性(輸血後)	保管検体4本すべてHCV-RNA(-)		4単位	2/4(HCV関連検査陰性)	3本の原料血漿、1本の新鮮凍結血漿-LRを製造。原料血漿は全て確保済み。新鮮凍結血漿-LRは全て確保済み。	-	非重篤	未回復				
輸血後NATで陰性又は輸血前後で陽性																										
3-1000065	A-10000050	2010/9/16	2010/10/1	照射赤血球濃厚液-LR(人赤血球濃厚液(放射線照射)) 新鮮凍結血漿-LR(新鮮凍結人血漿)	女	70	消化器腫瘍	C型肝炎	10/05-06 10/05	HCV-Ab(+)(10/05) HCVコア抗原(-)(10/05)	HCVコア抗原(+) HCV-Ab(+)(10/09)	HCV-RNA(+)(10/05)	HCV-RNA(+) HCV-Ab(+)(10/11)	陽性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体11本についてHCV-RNA(-)		医療機関報告i10101862-001輸血前からHCV陽性であり、医師・企業共に因果関係を否定し報告対象外	9単位 10単位	5/11(HCV関連検査陰性)	2本の原料血漿、3本の新鮮凍結血漿-LR、6本の赤血球濃厚液-LRを製造。原料血漿は全て確保済み。新鮮凍結血漿-LRは全て確保済み。	赤血球濃厚液-LRは全て医療機関へ供給済み。	非重篤	回復			

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告日	販売名(一般名)	患者性別	年代	原疾患	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与前検査	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤等	備考	使用単位数	供血者再献血	同一供血者製剤確保	同一供血者製剤使用	感染症等転帰	転帰	供血者発過及の場合の供血者保管検体(抗原、抗体、NAT)(投与時点)	供血者発過及の場合の供血者の検査値	
3-1000086	A-10000072	2010/11/24	2010/12/7	赤血球濃厚液-LR(人赤血球濃厚液)照射濃厚血小板-LR(人血小板濃厚液(放射線照射))	男	60	血液腫瘍	C型肝炎	10/08-09 10/08-09	HCVコアAg(-) HCV-Ab(-) HCVコアAg(+) (10/08)	HCVコアAg(-) (10/09) HCV-Ab(-) (10/10) HCVコアAg(+) (10/10)	HCV-RNA(-) (10/06)	HCV-RNA(-) (10/10)	陰性(輸血前) 陰性(輸血後)	保管検体4本についてHCV-RNA(-)		輸血前後HCV-RNA(-)のため、医師・企業共に因果関係を否定し、報告対象外	4単位 20単位	2/4(HCV関連検査陰性)	3本の原料血漿、1本の新鮮凍結血漿-LRを製造。原料血漿は確保済み。新鮮凍結血漿-LRは確保済み。	-	非重篤	不明			
陽転未確認事例																										
3-1100003	A-10000094	2011/1/18	2011/2/1	照射赤血球濃厚液-LR(人赤血球濃厚液(放射線照射))	女	70	消化器疾患	C型肝炎	10/02	HCV-Ab(-) (09/05) HCV-Ab(-) (09/09)	HCVコアAg(-) (10/03) HCVコアAg(+) (10/04) HCVコアAg(+) (10/06) HCV-Ab(-) (10/06) HCVコアAg(+) (10/07) HCVコアAg(+) (10/07) HCVコアAg(+) (10/08) HCV-Ab(+) (10/09) HCV-Ab(+) (10/11)	調査中	調査中	HCV関連検査実施予定	保管検体3本すべてHCV-RNA(-)			4単位	1/2(HCV関連検査陰性)	2本の原料血漿を製造。	原料血漿は全て使用済み。	重篤	未回復			
輸血によるHIV感染報告例(疑い例を含む。)																										
(該当例なし)																										

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告領日	販売名(一般名)	患者性別	年代	原疾患	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与前検査	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤等	備考	使用単位数	供血者再献血	同一供血者製剤確保	同一供血者製剤使用	感染症等転帰	転帰	供血者発過及の場合の供血者保管検体(抗原、抗体、NAT)(投与時点)	供血者発過及の場合の供血者の検査値	
				輸血による細菌等感染報告例(疑い例を含む。)																						
陽性等事例																										
3-1000079	A-1000066	2010/11/1	2010/11/15	照射赤血球濃厚液-LR(人赤血球濃厚液(放射線照射)) 照射濃厚血小板-LR(人血小板濃厚液(放射線照射)) 新鮮凍結血漿-LR(新鮮凍結人血漿)	男	10	腎・泌尿器系腫瘍	A型肝炎	10/06 10/06 10/06	IgM-HAV-Ab(-) HAV-Ab(-) (10/05)	HAV-Ab(+) (10/09) IgM-HAV-Ab(-) HAV-Ab(+) (10/09) HAV-Ab(+) (10/10)	-	-	-	保管検体は1検体がHAV-RNA(-)、IgM-HAV-Ab(-)、IgG-HAV-Ab(+) 他は9本全てHAV-RNA(-)、IgM-HAV-Ab(-)、IgG-HAV-Ab(-)		5単位 25単位 6単位	-	7本の原料血漿、3本の赤血球濃厚液-LRを製造。原料血漿はすべて確保済み。	赤血球濃厚液-LRは全て医療機関へ供給済み。	重篤	回復				
3-1000097	A-1000087	2010/12/24	2011/1/6	照射濃厚血小板-LR(人血小板濃厚液(放射線照射)) 赤血球濃厚液-LR(人赤血球濃厚液)	男	30	血液腫瘍	E型肝炎	10/09-10	-	HEV-RNA(+) (10/12)	HEV-RNA(+) (10/09)	HEV-RNA(+) (10/09)	陽性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体9本についてすべてHEV-RNA(-)		60単位 6単位	-	8本の原料血漿、1本の新鮮凍結血漿-LRを製造。原料血漿はすべて確保済み。新鮮凍結血漿-LRは確保済み。		重篤	回復				
3-1000070	A-1000056	2010/10/5	2010/10/18	照射濃厚血小板-LR(人血小板濃厚液(放射線照射))	男	80	血液疾患外傷・整形外科的疾患その他の疾患	細菌感染	10/09	-	9:25 血小板製剤輸血施行。 10:40 悪寒あり。BT 39.4、SpO2 94% 11:20 SpO2 88%、O2はマスクで3L/min、 12:40 BT 39.9、SpO2 91-92%(3L/min) 16:00 BT 38.6、SpO2 95-97%(3L/min) 19:00 BT 40.5 院内にて実施の患者血液培養にてEscherichia coliを同定した。 喀痰検査にてPseudomonas aeruginosaとStreptococcusを同定した。	同一採血番号の血漿(1本)で無菌試験を実施。適合。 エンドトキシン濃度0.8pg/mL以下(基準値1.0pg/mL)。 非溶血性副作用関連検査実施。 抗血漿タンパク質抗体検査:抗IgA抗体弱陽性 血漿タンパク質欠損検査:欠損なし						被疑薬:採血4日目の照射濃厚血小板-LR(1本) 担当医より細菌感染と輸血用血液との因果関係はないと考える、とのコメントが得られた。	10単位	-	1本の原料血漿を製造。確保済み。		重篤	軽快		

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受領日	販売名(一般名)	患者性別	年代	原疾患	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与前検査	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤等	備考	使用単位数	供血者再献血	同一供血者製剤確保	同一供血者製剤使用	感染症等転帰	転帰	供血者発過及の場合の供血者保管検体(抗原、抗体、NAT)(投与時点)	供血者発過及の場合の供血者の検査値
3-1000072	A-10000058	2010/10/15	2010/10/18	赤血球濃厚液-LR(人赤血球濃厚液)	女	0	先天性疾患	敗血症	10/09	-	赤血球製剤投与翌日 BT 40.1、P 150/min 院内にて実施の患者血液培養より Enterobacter aerogenes を同定した。	同一採血番号の血漿(1本)で無菌試験を実施、適合	-	-	-	被疑薬:採血4日目の赤血球濃厚液-LR(1本)	1単位	-	1本の原料血漿を製造、確保済み。	-	重篤	回復			
3-1000073	A-10000060	2010/10/14	2010/10/29	照射赤血球濃厚液-LR(人赤血球濃厚液(放射線照射))	女	50	消化器疾患	敗血症	10/10	-	赤血球製剤輸血施行 BT 39 台後半、BP 170/90 院内にて実施の患者血液培養よりグラム陰性桿菌 Klebsiella pneumoniae を同定した。	投与中止の当該製剤(1本)で細菌培養試験、陰性。非溶血性副作用関連検査実施 抗血漿タンパク質抗体検査:陰性 血漿タンパク質欠損検査:欠損なし	-	-	-	被疑薬:採血12日目の照射赤血球濃厚液-LR(1本) 調査結果を受けて担当医より「副作用・感染症との因果関係はないと考える」とのコメントが得られた。	2単位	-	1本の原料血漿を製造、確保済み。	-	重篤	軽快			
3-1000074	A-10000061	2010/10/22	2010/11/5	濃厚血小板HLA-LR(人血小板濃厚液HLA)	男	50	血液腫瘍	細菌感染	10/10	BP103/60	16:45 血小板製剤投与開始。 17時過ぎ BT 38.0、悪感(+)訴えあり。 BP 118/78 血培(ヒックマン赤ライン/白ライン/末梢)、咽頭培養施行。患者血液培養は陰性。	使用済みバッグ(1本)による細菌培養を実施、陰性 非溶血性副作用関連検査実施 抗血漿タンパク質抗体検査:陰性 血漿タンパク質欠損検査:欠損なし	-	-	-	被疑薬:採血3日目の濃厚血小板HLA-LR(1本)	10単位	-	1本の原料血漿を製造、確保済み。	-	重篤	軽快			
3-1000080	A-10000067	2010/11/2	2010/11/15	照射濃厚血小板-LR(人血小板濃厚液(放射線照射))	男	60	血液疾患	細菌感染	10/10	9:30 BT 36.4	15:18血小板製剤輸血開始。 16:20 輸血終了。 16:50 シバリング出現。BP 124/62、P 78。 17:03 BT 37.5、BP 115/68 17:16 シバリング消失。BT 38.2、BP 138/65、P 82 20:30 BT 36.8、BP 110/58、P 68。 院内にて実施の患者血液培養にて Staphylococcus epidermidis を同定。	使用済みバッグ(1本)による細菌培養を実施、陰性 非溶血性副作用関連検査実施 抗血漿タンパク質抗体検査:陰性 血漿タンパク質欠損検査:欠損なし	-	-	-	被疑薬:採血3日目の照射濃厚血小板-LR(1本)	10単位	-	1本の原料血漿を製造、確保済み。	-	非重篤	回復			

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告領日	販売名(一般名)	患者性別	年代	原疾患	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与前検査	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤等	備考	使用単位数	供血者再献血	同一供血者製剤確保	同一供血者製剤使用	感染症等転帰	転帰	供血者発症及の場合の供血者保管検体(抗原、抗体、NAT)(投与時点)	供血者発症及の場合の供血者の検査値
3-1000082	A-10000068	2010/11/10	2010/11/24	照射赤血球濃厚液-LR(人赤血球濃厚液(放射線照射)新鮮凍結血漿(新鮮凍結人血漿))	男	70	肝・胆・脾腫瘍	敗血症	10/10 10/10	-	20:00輸血開始 BT38.0、BP80/40 21:00 BT37.8、BP80/38 23:00BT37.3、BP82/36 翌日 4:30輸血開始。 BP90/50 18:00 BT 38.4、BP140/50 19:35 BP60/30 翌々日 2:00 輸血開始。 2:28 敗血症性ショックにて患者死亡。剖検なし。 院内にて実施の患者血液培養より Enterococcus faeciumを同定した。					アルブミン	被疑薬: 採血11日目の赤血球濃厚液-LR(1本) 採血12日目の赤血球濃厚液-LR(4本) 採血13日目の赤血球濃厚液-LR(2本) 採血289日目の新鮮凍結血漿(1本) 採血290日目の新鮮凍結血漿(2本) 採血314日目の新鮮凍結血漿(1本)	14単位 20単位	-	6本の原料血漿、1本の新鮮凍結血漿-LRを製造。原料血漿は全て確保済み。新鮮凍結血漿-LRは確保済み。	-	重篤(死亡)	死亡		
3-1000085	A-10000071	2010/11/22	2010/12/6	照射赤血球濃厚液-LR(人赤血球濃厚液(放射線照射))	女	70	血液腫瘍	敗血症	10/11	14:30 BT 37.2	15:25 赤血球製剤投与開始。 15:40 副作用なし。 16:55 悪寒、嘔吐。輸血中止。 17:15 BT 38.8。血液培養施行。 BT 39.5 23:50 BT 38.0 輸血翌日 BT 38 前後。発熱続く。 輸血翌々日 BT 37 台。 院内にて実施の患者血液培養にて Escherichia coliを同定。	投与中止の当該製剤(1本)で細菌培養試験を実施、陰性。非溶血性副作用関連検査実施 抗血漿タンパク質抗体検査:陰性 血漿タンパク質欠損検査:欠損なし				被疑薬:採血5日目の照射赤血球濃厚液-LR(1本)	2単位	-	1本の原料血漿を製造、確保済み	-	重篤	未回復			
3-1000093	A-10000079	2010/12/3	2010/12/15	照射濃厚血小板HLA-LR(人血小板濃厚液HLA(放射線照射))	女	60	血液腫瘍	敗血症	10/11	BT 37.4、BP 97/57、P 84	血小板製剤投与開始後 30分後に悪寒、発熱、BT 39.8、BP 135/72、P 120 患者血液培養でグラム陰性桿菌を検出。Providencia alcalifaciensを同定。	同一採血番号の血漿(1本)で無菌試験を実施、陰性。非溶血性副作用関連検査実施。 抗血漿タンパク質抗体検査:陰性 血漿タンパク質欠損検査:陰性 抗HLA抗体検査:輸血前、陰性、輸血後、陽性				被疑薬:採血4日目の照射濃厚血小板HLA-LR(1本)	10単位	-	1本の原料血漿を製造、確保済み。	-	重篤	未回復			

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告領日	販売名(一般名)	患者性別	年代	原疾患	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与前検査	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤等	備考	使用単位数	供血者再献血	同一供血者製剤確保	同一供血者製剤使用	感染症等転帰	転帰	供血者発過及の場合の供血者保管検体(抗原、抗体、NAT)(投与時点)	供血者発過及の場合の供血者の検査値
3-1000095	A-10000080	2010/12/9	2010/12/21	照射赤血球濃厚液-LR(人赤血球濃厚液(放射線照射))	男	50	消化器腫瘍	敗血症	10/12	7:22 BT 36.1、HR 83、BP 133/73	10:30 赤血球製剤1単位投与開始。 11:45 投与終了。 11:45 赤血球製剤1単位投与開始。 14:00 投与終了。BT 36.6、HR 83、BP 140/73 輸血翌日 6:00 BT 37.5、HR 90、BP 100/69 7:00 BT 39.8。患者血液培養実施。 11:00 BT 38.0 14:45 BT 38.3、HR 112、BP 161/77 16:00 BT 38.6 19:40 HR 112、BP 146/72 末梢冷感、発汗著明、敗血症性ショック疑い、患者血液培養よりグラム陰性桿菌(3+)を検出し、Acinetobacter baumannii同定。 20:00 BT 38.9、HR 100、BP 116/60	同一採血番号の血漿(1本)で無菌試験を実施、適合 当該輸血用血液と同時製造品の血漿のセグメントチューブでのエンドキシン検査結果 (1)1本エンドキシン濃度 0.9pg/mL(基準値1.0pg/mL) (2)1本エンドキシン濃度 1.7pg/mL(基準値1.0pg/mL)であったが再検査の結果基準値以下であった。	-	-	-	被疑薬:採血15日目の照射赤血球濃厚液-LR(2本)	2単位	-	2本の原料血漿を製造、すべて確保済み。	-	重篤	回復			

【国内血漿分画製剤例】

識別番号	FAX 受付日	報告 受領日	販売名(一般 名)	患者 性別	年代	原疾患 (簡略 名)	感染症 名	投与 年月	投与前 検査 (年月)	投与後検査(年月)	患者 検体 確保 状況	受血 者個 別 NAT	原料血漿・ 製品NAT検 査(再検査・ 製造時検査 の別)	併用 血液 製剤 等	備考	使用 単位 数	ロット 番号	同一製剤ロット使用状況	感染 症転 帰	転帰
A-1000084	2010/12/20	2010/12/22	献血ヴェノグロブリンIH(ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリン)	男	~10	その他	ヘルペスウイルス感染	2010/8	-	2010/08/10* 発熱。 2010/08/14* 顔面、体幹部、手掌に小紅斑多数出現し、徐々に全身に広がり癒合した。 2010/08/16 アスピリンをフロベンに内服変更。 2010/08/24 全身の発疹はすべて消失した。 2010/08/27* 再び、手掌、足底に小紅斑が出現し、徐々に四肢に拡大している。						30g	R468VX	安全性については 1)本剤はウイルスの不活化・除去を目的として製造工程に60 10時間の液状加熱処理、濾過膜処理(19nmのナノフィルトレーション)を施している。2)ヘルペスウイルスのモデルウイルスとしてBHVを用いた本剤製造工程のウイルスプロセスバリデーション試験で、合計30.9Logのリダクションファクターが得られており、万一本剤の原料にHHV-6、HHV-7が混入したとしても、製造工程において十分に不活化・除去されることが考えられる。3)当該ロットの出荷状況は、出庫開始日:2010年4月15日、最終出庫日:2010年7月29日、出荷数:12,769本で在庫なし、有効期限:2011年11月9日である。当該ロットにおいて他にHHV-6あるいはHHV-7感染が疑われた症例は報告されていない。 以上から、本剤からHHV-6およびHHV-7が伝播した可能性は否定できると考える。; 担当医が「本剤からのHHV-6,7伝播ではなく、免疫力低下による再活性化であると判断」し、企業・担当医共に因果関係を否定したため報告対象外。		回復
A-1000091	2011/1/21	2011/1/25	献血ヴェノグロブリンIH(ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリン)	男	~10	その他	菌血症	2010/8	両側、足底から連続する足背-下腿-大腿遠位部の紅斑あり(10/08)	1回目投与終了後、治療開始前からの発疹は消失。 本剤の投与を開始(2回目、15g)。丘疹が発現。 本剤の投与を開始(3回目、10g)(10/08) 5日後、急性汎発性発疹性膿疱症の疑い。 急性汎発性発疹性膿疱症、パンテア属菌血症は回復。(2010/09)							R471	現在実施中の使用成績調査にて入手された情報である。 担当医はパンテア属菌血症と本剤との関連性を「不明」としているため、製剤からの感染を疑っている可能性が否定できないので感染症報告として報告する。追加調査を実施中。本剤の原料にパンテア属菌が混入したとしても、製造工程において十分に不活化・除去されるため企業は本剤からパンテア属細菌が伝播した可能性は否定できると考える。 当該ロットの出荷状況は、出庫開始日:2010年6月14日、最終出庫日:2010年8月17日、出荷数:12,251本で在庫なし、有効期限:2011年12月24日である。当該ロットにおいて他に細菌感染が疑われた症例は報告されていない。;		回復

試行的 HEV20 プール NAT 実施状況について
(輸血後 HEV 感染の予防対策)

1. 試行的 HEV20 プール NAT 実施状況

北海道赤十字血液センター管内
調査期間:平成 17 年 1 月 1 日～平成 22 年 12 月 31 日

	献血者数	HEV-RNA 陽性	陽性率
H17. 1～H18. 2* ¹	341, 174	45	1/7, 582
H18. 3～H22. 12* ²	1, 311, 106	151	1/8, 683
合計	1, 652, 280	196	1/8, 430

*1 北海道センターにて NAT 実施(ALT 高値、検査不合格検体も含む)

*2 血漿分画センターにて NAT 実施(ALT 高値、検査不合格検体は除く)

2. HEV-RNA 陽性献血者の内訳
別添

2. HEV-RNA陽性者の内訳

No.	採血日	年齢	性別	ALT (IU/L)	HEV抗体		HEV RNA	問診 該当 ※1	喫食歴調査		遡及対象 供給製剤	受血者情報
					IgM	IgG			肉の種類	食べ方		
1	2005/01/04	32	M	57	-	-	+	無	不明レバー	生	無	
2	2005/02/07	38	F	11	-	-	+	無	ブタレバー	生	無	
3	2005/02/13	41	M	103	-	-	+	無	回答なし		無	
4	2005/03/25	65	F	17	-	-	+	無	回答なし		無	
5	2005/03/27	26	M	38	-	-	+	有	不明レバー(問診時)	生	有	赤血球製剤破損のため院内廃棄
6	2005/04/10	54	F	20	-	-	+	無	ウシ精肉	半生	無	
7	2005/04/15	59	F	16	-	-	+	無	ブタホルモン、シカ精肉	十分加熱	無	
8	2005/04/15	35	F	16	-	-	+	無	シカ精肉、ウシ精肉 ウシレバー、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	無	
9	2005/04/20	25	M	24	+	+	+	無	ウシレバー、ウシ精肉 ウシホルモン、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	有	感染なし
10	2005/04/28	22	M	44	-	-	+	無	回答なし		無	
11	2005/06/07	42	M	24	+	+	+	無	ウシ精肉 ウシホルモン、ブタ精肉、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	有	原疾患により死亡
12	2005/06/22	51	M	52	-	-	+	無	回答なし		無	
13	2005/07/03	58	M	219	+	+	+	無	不明レバー、ブタ精肉	十分加熱	無	
14	2005/07/05	22	M	23	+	-	+	無	回答なし		無	
15	2005/07/05	38	M	15	-	-	+	無	ブタホルモン、ウシ精肉、ブタ精肉	半生	無	
16	2005/07/13	24	M	19	-	-	+	無	ウシレバー	生	有	原疾患により死亡
17	2005/09/02	33	M	49	-	-	+	無	ウシ精肉 ヒツジ精肉	生 半生	無	
18	2005/09/01	29	F	100	+	+	+	無	ウシホルモン、ヒツジ精肉 ウシレバー、ウシ精肉、ブタ精肉	半生 十分加熱	無	
19	2005/09/20	42	M	31	-	-	+	無	ブタホルモン、不明レバー、ヒツジ精肉	十分加熱	有	HEV感染(H17.11.1 運営委員会報告済み)
20	2005/09/27	20	F	10	-	-	+	無	ウシ精肉、ブタホルモン、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
21	2005/10/21	41	M	12	-	-	+	無	回答なし		無	
22	2005/10/25	44	F	38	+	+	+	無	ウシ精肉、ブタ精肉	十分加熱	無	
23	2005/11/07	30	F	21	-	-	+	無	ブタホルモン、ウシ精肉、ヒツジ精肉 ブタホルモン、ウシ精肉、ブタ精肉、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	無	
24	2005/11/07	31	F	12	+	+	+	有	ブタレバー、ブタホルモン、ウシ精肉	十分加熱	無	
25	2005/11/20	28	M	47	+	+	+	有	ウシレバー、ウマ精肉 ブタホルモン、ウシ精肉、ブタ精肉	生 十分加熱	無	
26	2005/11/29	35	F	333	+	+	+	有	回答なし		無	
27	2005/12/13	42	M	30	-	-	+	有	ウシ精肉、ヒツジ精肉 不明レバー、ブタ精肉	半生 十分加熱	有	原疾患により死亡
28	2005/12/13	30	M	11	-	-	+	有	不明レバー	十分加熱	有	HEV感染(H18.01.26 運営委員会報告済み)
29	2005/12/22	62	F	14	-	-	+	無	回答なし		無	
30	2005/12/27	42	F	14	-	-	+	無	回答なし		無	

No.	採血日	年齢	性別	ALT (IU/L)	HEV抗体		HEV RNA	問診該当※1	喫食歴調査		遡及対象供給製剤	受血者情報
					IgM	IgG			肉の種類	食べ方		
31	2006/01/02	22	F	12	-	-	+	有	ウシレバー、ウシ精肉	十分加熱	無	
32	2006/01/06	68	M	23	-	-	+	無	ウシレバー、ブタホルモン、ヒツジ精肉	半生	無	
33	2006/01/13	36	M	42	-	-	+	無	ウマ精肉、不明レバー ウシ精肉、ヒツジ精肉	生 半生	無	
34	2006/01/18	53	M	238	+	+	+	有	ウシレバー、ウシホルモン	十分加熱	無	
35	2006/01/13	31	M	43	-	-	+	有	不明レバー ブタ精肉、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	無	
36	2006/01/17	48	M	25	-	-	+	無	回答なし		無	
37	2006/01/25	52	M	25	-	-	+	無	不明レバー、ヒツジ精肉	十分加熱	有	輸血後89日現在、HEVマーカーの陽転は見られず追跡調査終了
38	2006/01/30	39	F	22	-	-	+	無	回答なし		無	
39	2006/01/30	25	M	32	-	-	+	有	ウシ精肉、ウシホルモン、ブタ精肉	十分加熱	無	
40	2006/02/02	39	F	35	-	+	+	有	ウシレバー ウシレバー	生 半生	無	
41	2006/02/07	57	M	13	-	-	+	無	不明	不明	無	
42	2006/02/07	40	F	172	+	+	+	無	ウシ精肉	十分加熱	無	
43	2006/02/17	39	M	28	-	-	+	無	ブタホルモン、ブタレバー、ブタガツ、ヒツジ精肉 イノシシ精肉、ブタ精肉	半生 十分加熱	無	
44	2006/02/20	58	M	22	-	-	+	無	ヒツジ精肉	十分加熱	無	
45	2006/02/21	45	M	30	-	-	+	無	ウシ精肉 ブタ精肉、ブタレバー、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	無	
46	2006/03/01	46	F	15	-	-	+	無	回答なし		無	
47	2006/03/01	50	F	29	-	-	+	無	回答なし		無	
48	2006/03/02	54	M	47	+	+	+	無	ウシ・ブタ(精肉、レバー、ホルモン)、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
49	2006/03/27	40	F	12	-	-	+	無	回答なし		無	
50	2006/04/01	31	F	16	-	-	+		ヒツジ精肉	半生	無	
51	2006/04/04	30	F	14	-	-	+		ブタ精肉、不明レバー	十分加熱	無	
52	2006/04/12	38	M	45	+	+	+		ブタレバー、ウシ精肉、ブタ精肉、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
53	2006/04/18	21	M	26	-	-	+		ウシ精肉、ウシホルモン ウシ精肉、ウシホルモン	半生 十分加熱	無	
54	2006/04/22	28	M	14	+	+	+		回答なし		無	
55	2006/04/26	46	M	19	-	-	+		ブタレバー	半生	無	
56	2006/05/18	62	M	27	-	-	+		ヒツジレバー	十分加熱	無	
57	2006/07/07	17	M	33	-	-	+		回答なし		無	
58	2006/07/11	34	F	10	-	-	+		回答なし		無	
59	2006/07/12	21	F	27	-	-	+		回答なし		無	
60	2006/07/22	49	M	46	+	-	+		ウシ精肉、ブタ精肉、ブタホルモン、ブタレバー	十分加熱	無	

No.	採血日	年齢	性別	ALT (IU/L)	HEV抗体		HEV RNA	問診該当※1	喫食歴調査		遡及対象供給製剤	受血者情報
					IgM	IgG			肉の種類	食べ方		
61	2006/08/01	62	M	18	-	-	+		ブタホルモン、ウシ精肉、ブタ精肉、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
62	2006/09/06	44	F	14	-	-	+		喫食歴なし		無	
63	2006/09/29	68	M	15	-	-	+		ブタ精肉、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
64	2006/10/21	29	M	22	-	-	+		不明		無	
65	2006/11/19	48	M	58	-	-	+		ウシ精肉、ブタ精肉	十分加熱	無	
66	2006/11/23	54	M	18	-	-	+		回答なし		無	
67	2006/12/01	43	M	55	-	+	+		ブタ精肉	十分加熱	無	
68	2006/12/04	60	M	46	+	+	+		ウシ精肉	十分加熱	無	
69	2006/12/04	47	M	40	+	+	+		ウシ精肉、ウシホルモン	十分加熱	無	
70	2007/03/01	33	M	41	-	-	+		ウシレバー	生	無	
71	2007/03/15	42	M	32	-	+	+		ブタレバー、ブタホルモン	半生	無	
72	2007/03/27	55	M	30	-	-	+		不明レバー	十分加熱	無	
73	2007/04/07	22	F	9	-	-	+		ユッケ ウシホルモン、ヒツジホルモン	生 十分加熱	無	
74	2007/05/16	47	F	15	-	-	+		ヒツジ精肉、ブタホルモン	十分加熱	無	
75	2007/05/18	40	F	27	+	+	+		ブタ生ハム(自家製)	半生	無	
76	2007/05/30	33	M	26	-	+	+		ヒツジ精肉、ブタホルモン	十分加熱	無	
77	2007/06/22	38	M	20	-	-	+		ウシ精肉、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
78	2007/06/25	45	M	37	+	+	+		ブタ精肉 ヒツジ精肉	十分加熱 半生	無	
79	2007/06/27	37	M	18	-	-	+		ブタ精肉	十分加熱	無	
80	2007/07/24	57	M	24	-	-	+		喫食歴なし		無	
81	2007/07/29	37	M	48	-	-	+		不明レバー、ブタホルモン 不明レバー、ブタホルモン	十分加熱 半生	無	
82	2007/07/31	48	M	30	-	-	+		ブタ精肉、ブタホルモン、ブタレバー	十分加熱	無	
83	2007/08/01	48	M	33	-	-	+		ブタ精肉 ウシ精肉、ヒツジ精肉	十分加熱 半生	無	
84	2007/08/04	53	M	28	-	-	+		ヒツジ精肉 ヒツジ精肉	十分加熱 半生	無	
85	2007/08/26	50	M	60	-	-	+		ヒツジ精肉 ウシ精肉	十分加熱 生	無	
86	2007/09/05	41	M	29	-	-	+		喫食歴なし		無	
87	2007/09/18	41	M	23	-	-	+		ウシ精肉、ブタ精肉、ウシホルモン、ブタホルモン	半生	無	
88	2007/09/21	57	M	19	-	-	+		ブタホルモン	十分加熱	無	
89	2007/10/03	59	M	39	-	-	+		ブタレバー、ブタ精肉	十分加熱	無	
90	2007/10/03	19	M	40	-	-	+		喫食歴なし		無	

No.	採血日	年齢	性別	ALT (IU/L)	HEV抗体		HEV RNA	問診 該当 ※1	喫食歴調査		遡及対象 供給製剤	受血者情報
					IgM	IgG			肉の種類	食べ方		
91	2007/10/09	35	M	19	-	-	+		ブタ精肉	十分加熱	無	
92	2007/10/18	30	M	31	-	-	+		ウシ精肉、ブタ精肉、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
93	2007/11/16	24	M	5	-	-	+		不明		無	
94	2007/11/16	54	M	22	-	+	+		ブタホルモン、ブタレバー	十分加熱	無	
95	2007/11/16	45	M	47	-	-	+		ブタ精肉 ブタレバー	十分加熱 半生	無	
96	2007/11/19	58	M	13	-	-	+		レバー、ホルモン	不明	無	
97	2007/11/19	24	M	46	-	-	+		不明		無	
98	2007/11/24	36	M	25	-	-	+		不明		無	
99	2007/11/29	42	M	21	-	+	+		不明		無	
100	2007/11/30	31	M	42	+	+	+		レバー	不明	無	
101	2008/01/08	35	M	36	-	-	+		ウシ精肉、ブタ精肉	十分加熱	無	
102	2008/01/17	48	F	13	+	+	+		ブタホルモン、シカ精肉 ウシ精肉	十分加熱 半生	無	
103	2008/01/29	57	M	22	-	-	+		ブタレバー、ブタホルモン	十分加熱	無	
104	2008/02/04	31	M	47	+	+	+		不明		無	
105	2008/02/06	57	M	20	-	-	+		ブタホルモン	十分加熱	無	
106	2008/02/13	42	M	35	-	-	+		不明レバー	十分加熱	無	
107	2008/02/13	60	M	37	+	+	+		不明		無	
108	2008/03/11	30	M	21	-	-	+		不明		無	
109	2008/03/25	34	F	26	-	-	+		喫食歴なし		無	
110	2008/03/26	32	M	41	+	+	+		ブタ精肉、ウシ精肉	十分加熱	無	
111	2008/03/29	54	M	26	-	-	+		ブタ精肉	十分加熱	無	
112	2008/03/30	19	F	9	-	-	+		不明レバー	十分加熱	無	
113	2008/04/16	48	M	13	-	-	+		不明		無	
114	2008/05/12	33	M	12	-	-	+		ブタ精肉、ブタホルモン	半生	無	
115	2008/05/28	39	F	29	-	-	+		不明		無	
116	2008/05/28	47	M	46	-	-	+		ブタホルモン	十分加熱	無	
117	2008/06/04	43	M	38	+	+	+		ウシレバー ウシホルモン、ウシ、ブタ、ヒツジ精肉	生 十分加熱	無	
118	2008/06/07	42	M	11	-	-	+		ウシレバー ブタ精肉	生 十分加熱	無	
119	2008/06/23	48	M	17	-	-	+		ウシ、ブタ、ヒツジ精肉	半生	無	
120	2008/07/10	39	M	32	-	-	+		ウシ、ブタ、ヒツジ精肉 ウシ、ブタ、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	無	

No.	採血日	年齢	性別	ALT (IU/L)	HEV抗体		HEV RNA	問診 該当 ※1	喫食歴調査		遡及対象 供給製剤	受血者情報
					IgM	IgG			肉の種類	食べ方		
121	2008/07/11	39	M	28	-	-	+		不明		無	
122	2008/07/26	34	M	35	-	-	+		ウシ精肉、ブタ精肉	十分加熱	無	
123	2008/07/27	36	M	45	-	-	+		不明		無	
124	2008/07/30	24	M	10	-	-	+		不明		無	
125	2008/08/20	19	M	17	+	-	+		不明		無	
126	2008/09/03	30	M	28	-	-	+		不明		無	
127	2008/09/08	35	M	16	-	-	+		不明		無	
128	2008/09/09	23	F	24	-	-	+		ブタ、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
129	2008/09/16	33	F	18	+	+	+		不明		無	
130	2008/09/16	58	M	21	-	-	+		不明		無	
131	2008/09/17	62	M	37	-	-	+		ウシレバー、ブタレバー	十分加熱	無	
132	2008/09/23	42	M	36	-	-	+		ブタ精肉、ブタレバー	十分加熱	無	
133	2008/09/25	35	M	16	-	-	+		不明		無	
134	2008/09/27	30	M	22	-	-	+		不明		無	
135	2008/10/10	50	M	31	-	-	+		ウシ、ブタ、ヒツジ精肉	不明	無	
136	2008/10/11	39	F	15	-	-	+		ウマ精肉	生	無	
137	2008/10/14	56	M	13	-	-	+		不明レバー	生	無	
138	2008/10/18	38	F	23	-	-	+		不明		無	
139	2008/11/03	37	M	22	-	-	+		ウシホルモン、ブタ精肉	半生	無	
140	2008/11/11	41	F	11	-	-	+		不明		無	
141	2008/12/05	52	M	18	-	-	+		ブタレバー	十分加熱	無	
142	2008/12/20	47	M	22	-	-	+		ウシ、ブタ、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
143	2009/01/13	50	M	27	-	-	+		ウシ・ブタ(精肉、レバー、ホルモン)	十分加熱	無	
144	2009/01/27	55	M	17	-	-	+		不明		無	
145	2009/02/11	37	M	28	-	-	+		不明ホルモン	十分加熱	無	
146	2009/02/16	59	F	23	-	-	+		ブタレバー	不明	無	
147	2009/02/23	20	F	42	-	+	+		ウシ、ブタ精肉	半生	無	
148	2009/03/11	29	M	49	-	-	+		ブタレバー、ホルモン	十分加熱	無	
149	2009/04/16	35	F	29	-	-	+		ウシレバー ウシ・ブタホルモン	生 半生	無	
150	2009/04/24	36	F	42	-	-	+		不明ホルモン	不明	無	

No.	採血日	年齢	性別	ALT (IU/L)	HEV抗体		HEV RNA	問診 該当 ※1	喫食歴調査		遡及対象 供給製剤	受血者情報
					IgM	IgG			肉の種類	食べ方		
151	2009/04/27	45	M	50	-	-	+		不明		無	
152	2009/06/04	65	F	24	-	-	+		不明ホルモン	不明	無	
153	2009/06/09	63	M	26	-	-	+		ブタ肉 シカ精肉	十分加熱 生	無	
154	2009/07/01	47	M	40	+	+	+		ウシ精肉、ブタホルモン	十分加熱	無	
155	2009/07/23	26	F	11	-	-	+		ブタホルモン ウシ精肉	十分加熱 生	無	
156	2009/08/01	40	M	26	-	-	+		ウシ精肉、ブタホルモン	十分加熱	無	
157	2009/08/14	41	M	14	-	-	+		不明		無	
158	2009/09/04	43	M	45	-	-	+		ウマ精肉	生	無	
159	2009/09/09	54	F	14	-	-	+		ウシレバー	半生	無	
160	2009/09/09	51	M	19	-	-	+		ブタ精肉	十分加熱	無	
161	2009/10/12	27	M	41	-	-	+		不明		無	
162	2009/10/27	52	M	29	-	-	+		ブタ精肉、ブタレバー	十分加熱	無	
163	2009/11/17	53	M	19	-	-	+		ウシ・ブタ精肉、ウシレバー	半生	無	
164	2009/11/28	28	M	29	-	-	+		不明		無	
165	2009/12/13	37	M	35	-	-	+		ウシレバー	生	無	
166	2009/12/17	37	M	15	-	-	+		ウシ精肉、ブタレバー、ウシ・ブタホルモン	十分加熱	無	
167	2009/12/24	64	M	40	-	-	+		ヒツジ精肉	不明	無	
168	2009/12/28	34	F	18	-	-	+		不明		無	
169	2010/01/17	41	M	25	-	-	+		ウシレバー	生	無	
170	2010/01/19	34	M	36	-	-	+		ブタホルモン	十分加熱	無	
171	2010/01/21	39	M	24	-	-	+		ブタレバー、ウシ精肉、ブタ精肉	十分加熱	無	
172	2010/02/26	26	F	15	-	-	+		ウシ精肉	十分加熱	無	
173	2010/03/04	50	M	21	-	-	+		シカ精肉	半生	無	
174	2010/03/17	47	M	18	-	-	+		ブタ精肉	十分加熱	無	
175	2010/03/17	26	M	11	-	-	+		不明		無	
176	2010/03/26	60	M	38	-	-	+		ブタ精肉	十分加熱	無	
177	2010/04/17	54	M	37	-	-	+		ウシレバー、ブタホルモン	十分加熱	無	
178	2010/05/19	36	F	14	-	-	+		不明ホルモン		無	
179	2010/06/19	35	M	31	-	-	+		不明ホルモン		無	
180	2010/07/13	25	M	17	-	-	+		回答なし		無	

No.	採血日	年齢	性別	ALT (IU/L)	HEV抗体		HEV RNA	問診 該当 ※1	喫食歴調査		遡及対象 供給製剤	受血者情報
					IgM	IgG			肉の種類	食べ方		
181	2010/07/14	49	M	26	-	-	+		不明		無	
182	2010/07/19	49	M	21	-	-	+		なし		無	
183	2010/07/20	58	M	30	-	+	+		不明ホルモン、レバー	不明	無	
184	2010/07/29	44	M	17	-	-	+		ブタ精肉・レバー、ウシ・ヒツジ精肉	半生	無	
185	2010/08/01	50	M	14	-	-	+		ウシ精肉・ホルモン、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
186	2010/09/19	60	M	23	-	-	+		不明レバー・ホルモン	半生	無	
187	2010/09/19	42	M	30	+	+	+		ウシ・ブタホルモン・レバー	十分加熱	無	
188	2010/10/02	26	M	45	-	-	+		ウシレバー	生	無	
189	2010/10/11	43	M	25	-	-	+		ブタレバー・ホルモン	不明	無	
190	2010/10/27	40	M	29	-	-	+		ブタレバー、ウシホルモン	半生	無	
191	2010/11/08	67	M	19	-	-	+		ブタホルモン	十分加熱	無	
192	2010/11/10	44	M	15	-	-	+		不明ホルモン	半生	無	
193	2010/11/19	38	M	33	-	-	+		ウシレバー	生	無	
194	2010/11/22	57	F	9	-	-	+		なし		無	
195	2010/12/03	40	M	41	-	-	+		なし		無	
196	2010/12/21	25	F	14	-	-	+		不明		無	

※1:問診喫食歴調査内容

05年 1月1日～05年10月31日:「過去3ヶ月以内にブタ、シカ、イノシシあるいは動物種不明の生肉、生レバーの喫食歴」

05年11月1日～06年03月31日:「過去3ヶ月以内に生肉(半生も含む)、レバー、ホルモン(動物種、焼き方を問わず)の喫食歴」、なお本調査は06年03月31日をもって終了

事 務 連 絡
平成23年1月27日

日本赤十字社血液事業本部 御中

薬事・食品衛生審議会血液事業部会事務局
厚生労働省医薬食品局血液対策課

血液製剤に関する報告事項について

血液事業の推進に御努力いただき、厚く御礼申し上げます。

さて、標記につきましては、平成22年11月2日付け血安第399号にて貴社から報告を頂いたところですが、平成23年2月18日（金）に平成22年度第4回血液事業部会運営委員会が開催されますので、下記の事項について資料を作成いただき、平成23年2月2日（水）までに当事務局あて御提出いただきますようお願いいたします。記の12については、平成22年11月24日開催平成22年度第3回血液事業部会運営委員会提出資料を更新のうえ、再度御提出ください。

なお、資料の作成に当たっては、供血者、患者及び医療機関の名称並びにこれらの所在地又はこれらの事項が特定できる情報を記載しないよう、個人情報及び法人情報の保護に特段の御配慮をお願いします。

記

1. 平成15年9月5日付けで報告された輸血用血液製剤でHIVの感染が疑われる事例について、残る2人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
2. 平成16年3月22日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る5人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
3. 平成16年11月26日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る7人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
4. 平成17年1月12日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る4人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。

査結果。来訪がなければ、その旨。

5. 平成17年2月4日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る1人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
6. 平成17年6月23日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る2人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
7. 平成18年4月7日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る7人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
8. 平成18年6月5日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る1人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
9. 平成19年2月20日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る1人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
10. 平成21年11月20日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る3人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
11. 平成18年2月15日報告、3月8日付けで追加報告された輸血用血液製剤でHCV（C型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る3人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
12. 試行的HEV20プールNATについて、その後の調査実施状況。

血 安 第 4 2 号
平成 2 3 年 2 月 2 日

厚生労働省医薬食品局血液対策課長 様

日本赤十字社
血液事業本部長

血液製剤に関する報告事項について（回答）

平成 23 年 1 月 27 日付事務連絡によりご依頼のありました標記の件については、下記のとおり資料を作成しましたので報告いたします。

記

1. 平成 15 年 9 月 5 日付けで報告された輸血用血液製剤で H I V の感染が疑われる事例について、残る 2 人のその後の来訪なし。(8 名中 6 名が来所、検査は全て陰性)
2. 平成 16 年 3 月 22 日付けで報告された輸血用血液製剤で H B V (B 型肝炎ウイルス) 感染が疑われる事例について、残る 5 人のその後の来訪なし。(37 名中 32 名が来所、検査は全て陰性)
3. 平成 16 年 11 月 26 日付けで報告された輸血用血液製剤で H B V (B 型肝炎ウイルス) 感染が疑われる事例について、残る 7 人のその後の来訪なし。(48 名中 41 名が来所、検査は全て陰性)
4. 平成 17 年 1 月 12 日付けで報告された輸血用血液製剤で H B V (B 型肝炎ウイルス) 感染が疑われる事例について、残る 4 人のその後の来訪なし。(16 名中 12 名が来所、検査は全て陰性)
5. 平成 17 年 2 月 4 日付けで報告された輸血用血液製剤で H B V (B 型肝炎ウイルス) 感染が疑われる事例について、残る 1 人のその後の来訪なし。(追跡調査対象の 4 名中 3 名が来所、HBV-DNA は全て陰性。1 名は HBc 抗体が EIA 法のみ陽性 HI 法陰性、その他の者は全て陰性)

6. 平成 17 年 6 月 23 日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る 2 人の来訪なし。（20 名中 18 名が来所、検査は全て陰性）
7. 平成 18 年 4 月 7 日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る 7 人のその後の来訪なし。（53 名中 46 名が来所、HBV-DNA は全て陰性。2 名は HBc 抗体及び HBs 抗体陽性、1 名は HBs 抗体のみ陽性、その他の者は全て陰性）
8. 平成 18 年 6 月 5 日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る 1 人のその後の来訪なし。（29 名中 28 名が来所、HBV-DNA は全て陰性。2 名は HBc 抗体及び HBs 抗体陽性、1 名は HBs 抗体のみ陽性、その他の者は全て陰性）
9. 平成 19 年 2 月 20 日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る 1 人のその後の来訪なし。（3 名中 2 名が来所、検査は全て陰性）
10. 平成 21 年 11 月 20 日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る 3 人のその後の来訪なし。（23 名中 20 名が来所、検査は全て陰性）
11. 平成 18 年 2 月 15 日報告、3 月 8 日付けで追加報告された輸血用血液製剤でHCV（C型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る 3 人のその後の来訪なし。（81 名中 78 名が来所、検査は全て陰性）
12. 試行的HEV 20 プールNATについて、その後の調査実施状況については別紙のとおり。

安全対策業務の流れ

